

臨海副都心カーボンニュートラル戦略 概要版

戦略策定の背景と目的

- 臨海副都心では、これまでも豊かな水辺環境を活かした都市開発や、地域熱供給の導入など環境に配慮したまちづくりを推進
- 脱炭素化を契機としたまちの更なるブランド・魅力向上を目指し、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会と東京都の協働により「臨海副都心カーボンニュートラル戦略」を策定

(本戦略の検討体制)

臨海副都心の脱炭素化検討委員会

まちづくり協議会



東京都港湾局

“臨海副都心カーボンニュートラル戦略”

戦略が目指す将来像

にぎわい・
集客



ビジネス・
研究



防災・安全



&

脱炭素



理念

脱炭素化と調和した社会・経済
の実現によるまちの魅力向上

将来像Ⅰ

脱炭素×にぎわい・集客
水と緑にあふれた持続可能な観光・交流や先進技術に触れられるまち

将来像Ⅱ

脱炭素×ビジネス・研究
先進的な脱炭素化施策を推進しているまち

将来像Ⅲ

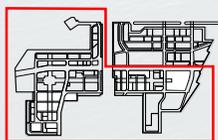
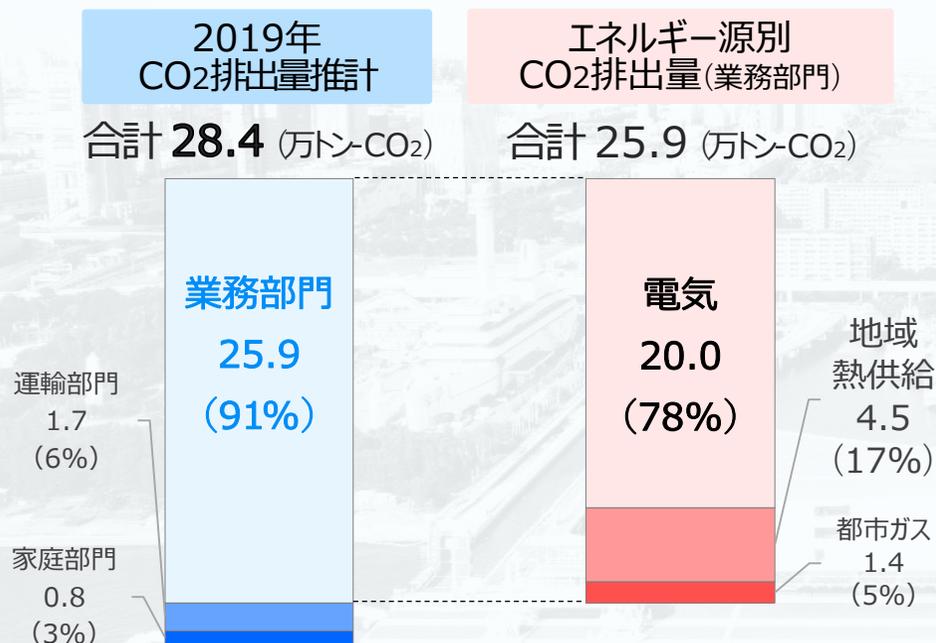
脱炭素×防災・安全
次世代の環境・防災機能を備えたまち

- にぎわいやビジネスなど臨海副都心の特徴と脱炭素化を調和し、環境と経済の好循環を実現するための軸となる理念を提示
- 各特徴と脱炭素化を掛け合わせた将来像を複数設定

現状・目標・課題

臨海副都心のCO2排出量推計

- 2019年のCO2排出量は、28.4万トン-CO2※
- 業務部門のCO2排出量が約9割であり、そのうち約8割がビル照明など電気使用によるもの



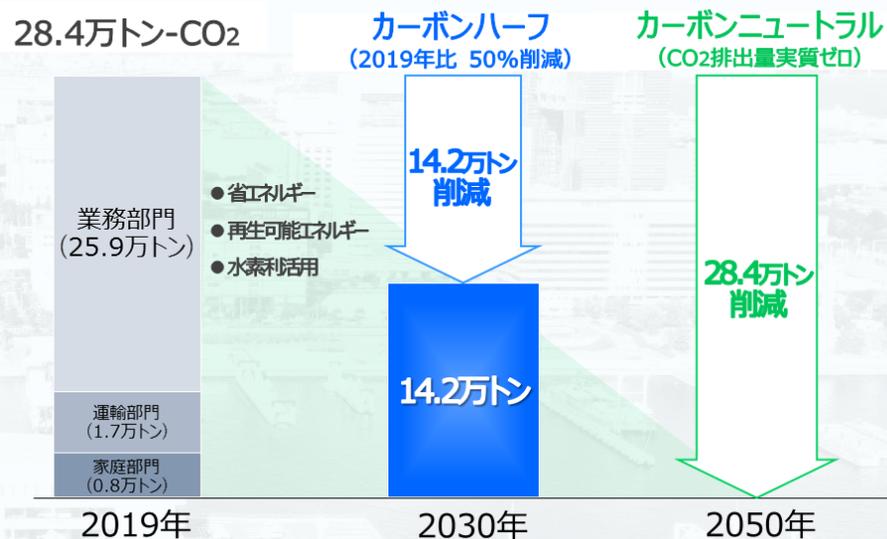
本戦略における臨海副都心のCO2排出量推計エリアは、まちづくり協議会の会員企業が立地する台場地区、青海地区及び有明南地区

※推計対象期間は2019年度

CO2排出量の削減目標

2030年 2019年比で50%削減 (カーボンハーフ)

2050年 CO2排出量実質ゼロ (カーボンニュートラル)



目標達成に向けた課題

- CO2排出量の多くは建物で使用される電気に由来
- 地域協働により事業者の脱炭素化を促進するとともに、都が率先して先進的な取組を展開することが重要

脱炭素化の取組例

省エネルギー促進

■ まちのCO₂排出量の見える化

- まちづくり協議会のWebサイトにて臨海副都心のCO₂排出量を公表
- 進捗を把握するとともに、まちの取組姿勢をPR



■ 新規建築物のZEB※化

- 土地処分を公募する際、建築物を従来の省エネ性能を上回るZEB※とすることを公募要件に位置付け

※ZEB Oriented等の適用も含めた広義の「ZEB」をいう



出典：環境省ZEB PORTAL

再生可能エネルギー導入

■ 次世代型ソーラーセルの検証

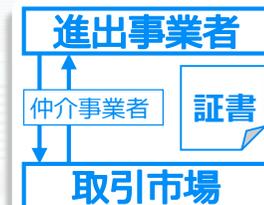
- 薄く、軽く、フレキシブルな太陽電池「次世代型ソーラーセル」の実装検証
- オフィスビル内などでの活用を見据えた検証を開始



画像提供：東芝エネルギーシステムズ(株)

■ 環境価値の共同調達

- 環境価値の調達に係る進出事業者のニーズを踏まえ、地域協働の取組としてFIT非化石証書の共同調達を実施



水素利活用

■ 水素混焼ボイラーの実装

- 全国初となる地域熱供給への水素混焼ボイラーの実装に向けた技術開発
- 安全な貯蔵技術・供給技術の研究開発も推進



画像提供：(株)ヒラカワ

■ 域内水素供給の技術開発

- 臨海副都心での域内水素供給に向け、研究機関・民間企業・都で連携し、共同溝等を活用した水素配管新技術を開発



今後の
進め方

P 本戦略

D 取組の実施

C 評価・検証

A 改善

P...